

## 利尻島におけるウスバスマミレの記録

佐藤雅彦<sup>1)</sup>・五十嵐 博<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 〒 097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館

<sup>2)</sup> 〒 066-0037 北海道千歳市新富1丁目7番5号 平和ビル 1F 北海道野生植物研究所

### Records of *Viola blandaeformis* at Rishiri Island

Masahiko SATO<sup>1)</sup> and Hiroshi IGARASHI<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

<sup>2)</sup>Wild Plant Research Institute, 1F, Heiwa-bldg, 5-7-1, Shintomi, Chitose, Hokkaido, 066-0037 Japan

**Abstract.** Records of *Viola blandaeformis* at Mt. Rishiri are revised from the literature, websites, specimens and a 2010 field survey. This species does not appear in recent floral lists for Rishiri Island (Tatewaki, 1941; Matsuno, 1984). The most recent record was a website photo, taken on the Oshidomari trail in 2009. Although some references and another website show Rishiri Island on their distribution maps for this species, no cited original publications and/or specimens are noted in these publications. From earlier research, we knew that the distribution record on the website was based on a specimen deposited in the Hokkaido University Museum. We found this specimen, which was collected by S. Kawano and H. Toyokuni on 11th June 1956 on Mt. Rishiri. It is accepted that this specimen is the first confirmed record of the species from this island. We also confirmed two flowers of this species found on the forest floor under *Pinus pumila* and *Alnus crispa* subsp. *maximowiczii* at an altitude of 1000-1400 m on the Oshidomari trail of Mt. Rishiri during our field survey in 2010.

ウスバスマミレ *Viola blandaeformis* は亜高山帯の針葉樹林下にみられる白花のスマミレであり、その分布は北海道・本州中部以北とされる (浜, 1975; いがり, 1996; 梅沢, 2007)。道内における確認例は、登山シーズン前の雪解け後に開花するためか比較的少ない。利尻島の植生調査は古くから多くの研究者によって行われてきたが、本種の記録は館脇 (1941)、松野 (1984) などにも掲載されず、本島における自生はあまり広く知られることがなかった。ところが、2009年に公開された個人のブログサイトにおいて、利尻山で撮影されたウスバスマミレの写真が掲載・公開され、その存在が広く知られることとなった。この記録に興味を持った筆者らは現地での再確認を行うと共に、同島におけるウスバ

スマミレの記録を再調査したので、その結果をここに記すこととした。

なお、筆者らにウスバスマミレの存在を改めて知らしめた「たんべえ山から」のブログ作者の方に心から感謝申し上げるとともに、標本調査にご協力いただいた野生生物総合研究所および北海道大学総合博物館、英文校閲をいただいた Ronald L. Felzer 氏 (Merritt College) にお礼申し上げます。

浜 (1975) によると、本種は亜高山から高山帯 (北海道では 800-1800m, 中部では 1800-2600m) にかけて、主に針葉樹林内のコケ類などの中に生育し、その分布の西限は北アルプス、南限は南アルプ



Figure 1. *Viola blandaeformis*. a: the specimen collected in 1956 at Rishiri Island. b: one of flowers confirmed in 2010 at Mt. Rishiri.

ス赤石岳と報告し、北海道の中央山岳などを北限として利尻島も図示しているが、詳しい説明は見られない。他の文献調査においては、これまで出版物として印刷された主要な利尻島の植物相に関する報告書など（川上，1900；館脇，1941；菅原，1962；松野，1984）には、その自生の具体的な証拠を示すものを見つけることはできなかった。環境省自然保護局（1980）では、ウスバスマレを指定植物として扱い、指定公園名として「利尻礼文サロベツ」の名があげられている。本種の生息環境を考慮すれば明らかに利尻島における自生を前提とした記述と考えられるが、残念ながら本書においても具体的な記録や分布の証拠は記されていない。また、伊藤ほか（1994）でも分布地に「宗谷」の名が見られるが、利尻の記述はない。本文の分布記録は、『北海道大学農学部・大学院環境科学研究科標本庫』に基づくことされるため（伊藤ほか，1994），おそらく後述する標本記録から分布地として宗谷があげられたものと想像された。

菅原（1962）および松野（1984）にはウスバスマレの名前は記録されていないが、白色の花を持つスマレとしてヒカゲスマレ *V. yesoensis* の名前があげられている。本種は葉の形や側弁の毛などでウスバスマレとは明らかに異なるため、これらの文献の筆者が本種とウスバスマレを見間違えたとは考えにくい。しかし、現在も利尻島内やその周辺地域に

おいてヒカゲスマレは確認されておらず、これらの文献が示したヒカゲスマレが何を示していたのかは、不明のままである（佐藤・山下，1995；佐藤，1995）。

以上のことから、これまで本種の利尻島における具体的な自生を示す公表された記録は筆者らの知る限り得られず、分布を示す文献においても、その根拠となる標本や写真などが充分示されてこなかったと言える。

利尻島にウスバスマレが自生することを示した文献以外のものとしては、2009年および2010年現在、以下の2つのネット上の記録が公開されている。

- [1] <http://blog.goo.ne.jp/tanbeeyama/e/a178c4f03bef5f339b7942a1cc116e9> (2009年6月17日参照)
- [2] <http://www.hinoma.com/maps/plants/m7712pa.gif> (2010年6月8日参照)

[1]については2009年6月10日に鴛泊ルートを登山中に利尻山中腹にてウスバスマレを発見し、撮影を行ったというものである。[2]については分布図のみで、具体的な観察記録などは同サイトから知ることができなかった。そこで、同サイトの管理をしている野生生物総合研究所のご協力により、その

記録が「1956年に採集された北海道大学農学部標本庫所蔵標本（現在は北大総合博物館標本庫）に基づくもの」であることが判明したため、筆者の一人である五十嵐により北海道大学総合博物館における標本調査が行われた。その結果、利尻島が採集地であるウスバスマレの標本1つが確認され、以下のラベルが記入された本標本が同サイトと伊藤ほか（1994）の分布証拠として使われた可能性が極めて高いと考えられた。

Mt. Rishiri Prov. Kitami June.11.1956. S. Kawano & H. Toyokuni

標本（写真1-a）は、河野昭一および豊国秀夫両氏により、1956年6月11日に利尻山で得られたものである。おそらく、浜（1975）もこの標本を確認して、分布図を作成したものと思われた。この標本の採集年以前にはいかなる記録にもウスバスマレの名前は見あたらないことなどから、本標本が利尻島で初めて確認されたウスバスマレと考えられる。しかし、この発見後、利尻島の分布記録が出版物として新たに公表されることがおそろくなかったため、これまでの文献等においても証拠標本や根拠となる文献が示されなかったものと想像された。

次に現地調査を行い、自生状況を確認した。現地調査は2010年6月15日に行われ、筆者の一人である佐藤が担当した。調査区間は利尻山鴛泊ルートの3合目（標高250m）から9合目上部の標高約1450mの地点までを対象とし、登山道沿いの林床部などを中心に開花個体を探査した。その結果、その区間において2株を確認することができた（写真1-b）。花茎の高さは4-4.5cm、1株につき2または3葉を有し、葉の長径は19-27mm、短径は16-26mmであった。これらの株がみられた場所は、いずれも0.2-2.0mの高さのハイマツ、ミヤマハンノキの林床であり、コミヤマカタバミ、ウサギシダ、エゾヤマゼンゴ、ゴゼンタチバナ、イワツツジなどが見られた。上部で発見された株は新鮮な花であったが、下部のものはほとんどしおれた状態であつ

た。本種は極めて株数が少なく、登山道の崩壊や植生の後退などが顕著な現在の利尻山においては絶滅が心配される種のひとつとも考えられた。

以上の調査により、利尻山におけるウスバスマレは1956年に初めて発見されたものの、花期が登山シーズンの比較的早い時期にあたることや、キバナノコマノツメのように群生とならず、株数が極めて少ないことなどから、これまでその自生があまり知られることがなかったものと想像された。今後は山頂付近での確認のほか、別ルートでの確認調査などを行い、保全対象種として注意深く見守っていく必要がある。

#### 参考文献

- 浜 栄助, 1975. 日本のスマレ. 誠文堂新光社. 東京. 280pp.
- いがりまさし, 1996. 日本のスマレ. 山と溪谷社. 247pp.
- 伊藤浩司・日野間 彰・中井秀樹（編）. 1994. 北海道高等植物目録 III. たくぎん総合研究所. 札幌. 480pp.
- 川上瀧弥, 1900. 利尻嶋ニ於ケル植物分布ノ状態. 植物学雑誌, 15(158-159): 77-83, 99-112.
- 環境庁自然保護局（編）, 1980. 国立, 国定公園特別地域内指定植物図鑑 - 北海道編 -. 環境庁. 467pp.
- 松野力蔵, 1984. 利尻島の植物目録と礼文島特産植物目録. 38pp. 自刊.
- 佐藤雅彦・山下佳代子, 1995. 松野力蔵氏寄贈の植物標本目録. 利尻研究, (14): 27-37.
- 佐藤雅彦, 1995. 北海道大学農学部附属植物園所蔵の菅原繁蔵氏採集による利尻・礼文産植物標本について. 利尻研究, (15): 65-97.
- 菅原繁蔵（編）, 1962. 利尻島の植物. 利尻町教育委員会. 29pp.
- 館脇 操, 1941. 北見利尻島の植物. 札幌農林学会報 (34): 70-102.
- 梅沢 俊, 2007. 新北海道の花. 北海道大学出版会. 札幌. 462pp.